

西日本支店長会 Branch

2022.7 No.456



「盛夏のころ」 撮影:丸山 徳子(福岡市在住)

Branch

西日本支店長会

2022年7月 No.456

西日本支店長会事務局

〒810-8721 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞社 西日本会事務局内
TEL 092(711)5190 FAX 092(711)5199 e-mail:shitenchokai@nishinippon-np.jp





一橋ビジネススクール国際企業戦略専攻専攻長・教授 IMD教授

一條 和生氏

世界ではティーンエージャーから23歳ぐらいまでのZ世代が活動します。地球温暖化の問題については、岸田首相が新しい資本主義と言っています。世界的にはステークホルダー資本主義で、資本主義の見直しが図られています。COP26が開かれ、地球の気温上昇を1.5度に抑制するか、2.0度に抑制するかで意見がまとまりませんでした。この0.5度の違いはかなり大きいのです。昨年、環境団体が出したシミュレーションによれば、何もしなければという前提ですけど、2050年には東京オリンピックの会場は水没します。

スイスのダボスで開かれる世界経済フォーラム(ダボス会議)の創設者であるシュワブ氏は、資本主義を見直そうと言っています。ステークホルダーとは利害関係。市民を含めたさまざまな利害関係者を幸せにする資本主義にならなければならぬ。ところが日本は、経済低迷といった経済面にフォーカスした見直しになっています。

「新しい資本主義と2022年に おける日本企業の課題」 —ローカルイノベーションをリードする—

資本主義が引き起こした地球温暖化や人権、貧困、社会の分断などの問題。これらの問題を解決するために、資本主義の見直しが世界的に図られています。西日本支店長会3月例会は、「新しい資本主義と2022年における日本企業の課題」—ローカルイノベーションをリードする—と題して、一橋ビジネススクール国際企業戦略専攻専攻長・教授でIMD教授の一條和生氏が講演。一條氏は「平成の時代に日本の競争力が落ちたうえにデジタル化が遅れたのは、日本の長年の問題が未解決のまま放置された結果」と述べ、暗黙知よりイノベーションを起こしていくことが重要と語りました。

(講演日:2022年3月8日)

資本主義を見直す時代

本日は3部構成です。第1部が世界全体の共通課題で、デジタル・トランスフォーメーション(DX)とサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)の連動。2番目が日本企業において何が問題なのかということで、平成失敗の本質について。最後は、日本企業がより明るい令和の時代を迎えるための役割です。

岸田首相が新しい資本主義と言っています。世界的にはステークホルダー資本主義で、資本主義の見直しが図られています。地球温暖化は世界の重要な課題です。昨年の秋に、英国グラスゴーでCOP26が開かれ、地球の気温上昇を1.5度に抑制するか、2.0度に抑制するかで意見がまとまりませんでした。この0.5度の違いはかなり大きいのです。昨年、環境団体が出したシミュレーションによれば、何もしなければという前提ですけど、2050年には東京オリンピックの会場は水没します。

スイスのダボスで開かれる世界経済フォーラム(ダボス会議)の創設者であるシュワブ氏は、資本主義を見直そうと言っています。ステークホルダーとは利害関係です。ステークホルダー資本主義です。市民を含めたさまざまなお利害関係者を幸せにする資本主義にならなければならぬ。ところが日本は、経済低迷といった経済面にフォーカスした見直しになっています。

CONTENTS

02 例会① Report

「新しい資本主義と2022年における日本企業の課題」—ローカルイノベーションをリードする—
一橋ビジネススクール国際企業戦略専攻専攻長・教授 いちじょう かずお
IMD教授 一條 和生氏

06 例会② Report

スペシャルインタビュー
東京2020パラリンピック みちした みさと
女子マラソン金メダリスト 道下 美里氏

10 例会③ Report

ローカルでの新しい働き方～地域経済をその土地ならではの価値観で作る～
イノベーションパートナーズ ほんだ しんいちろう
代表取締役社長 本田 晋一郎氏

14 2021年度西日本支店長会 決算表

14 2022年度西日本支店長会 役員

15 会員異動・新規会員(50音順)

資本主義を根本的、多面的な角度から見直そうという観点で、持続可能な開発目標(SDGs)があります。日本においてもSDGsへの関心が高まっていて、それでの企業がSDGsの目標にどれだけ貢献するかを真剣に議論されていると思います。なぜSDGsで17の項目が出てきたのか。項目の中に地球環境がありますが、それ以外に貧困や社会の分断、正義の問題、人権の問題などがあります。資本主義がいろんな問題を起してきたからこそ、17の項目を世界の共通課題として解決していく必要があるのです。

アップルは2030年にサプライヤーでカーボンニュートラルを達成できなければ仕事ができないことを明確にしています。SDGsの問題に幅広く積極的に取り組んでいかなければ、世界の一 流企業と仕事ができなくなってしまうことが現実に起こっています。

それを象徴するのが、タイム誌の昨年のパーソンオブザイヤーにテスラのイーロン・マスク氏が選ばれたことです。イーロン氏はサステナブルなエネルギーを自動車の世界でやっていることに対するリーダーシップを發揮していま

B/Sです。デジタルを活用した企業変革に成功したということで、この10年間に2回も世界最優良賞を取っています。経営トップは、「われわれはテクノロジー」と言っています。

2万8000人の行員のスタートアップ。デジタルでお客さまの生活の中に入り込む。さらに、イノベーションとデジタルテクノロジーを使い、今まで金融機関に相手にされていなかつた人々、要するに貧困層に対してもさまざまなサービスを提供しています。DXを使つて、よりよい地球社会、よりよい地球環境。そして平等な資本主義をつくろうと動いています。これが世界の最先端です。

変わらうとしない日本企業

日本は平成の失敗から学び、明るい令和の時代をつくっていかなければならぬのです。

長年の日本の問題であるアドバイスと人材の国際経験の不足は、昭和の時代から言わわれています。依然として残っているので、平成の失敗を乗り越えるのは簡単なことではないのです。

日本は平成の失敗から学び、明るい令和の時代をつくっていかなければならぬのです。

これは、環境が変わつていて、使うとつかわらず、戦い方を変えなかつたから。日露戦争のときの勝利の方程式を、そのまま第2次世界大戦のときにも使つていた。巨艦主義です。大和や武藏を造る。そのときには、すでに空中戦になつていて。環境が変わつたにもかかわらず、同じやり方でした。日本軍の戦い方から学べと書いた本です。

「環境の構造変化が起つたつある今日。これまでの成長期にうまく適応してきただ戦略と組織の変革が求められる。特に異質や異端の排除、発想や構造の均一性という日本企業の持つ特質が、逆機能化する」。殘念ながらこの警告が的中していることは、デジタル時代の

告です。私の一橋の師である野中郁次郎教授を含め6名の共著で1984(昭和59)年に出した本です。「昭和59年、日本企業を取り巻いていた環境が変わってきていく。だから従来の勝利の方程式に酔つてはいけない。日本企業は変わつてはいけない。日本企業は変わつて、新しい環境下で持続的に発展していかなければならぬ」という警笛の書が『失敗の本質』です。

日本軍がどうして負けたのか。これは、環境が変わつていて、使うとつかわらず、戦い方を変えなかつたから。日露戦争のときの勝利の方程式を、そのまま第2次世界大戦のときにも使つていた。巨艦主義です。大和や武藏を造る。そのときには、すでに空中戦になつていて。環境が変わつたにもかかわらず、同じやり方でした。日本軍の戦い方から学べと書いた本です。

昭和と平成では、失敗の本質はちょっとと違います。昭和は、変わらうとしなかつたこと。平成では、方が間違つていた。あるいは本当に変わらうとしなかつた。表向きに対応する。だけども、本当の気持ちで変わらうとしている。ゼロ金利やマイナス金利、ほつといても借金は軽くなる。そうした状況の中において、本当の変革をしない企業が存続を許されてしまつたのです。

DXやSDGsなど、いろいろな流行があります。その流行に飛びついで、本当に変わらうすることがなかつた。そこを、もつと真剣に考える必要があります。それと中途半端な変革。政府による保護救済がいろいろありますので、本格的な変革が行われなかつたのです。

暗黙知が問題解決につながる

最後に、支店長の皆さまが日本

度から見直そうという観点で、動化に動きました。そうした中で日本はどうするのか。昨年4月22日に注目するインタビューがありました。日本自動車工業会の豊田章男会長が「手段と目的のはき違えが起つているのではないか」と問題提起をされました。「世界は電気自動車を造るということが目的になっている。目指すべきことはカーボンニュートラル。達成する一つの手段が電動化かもしれないけど、電動化そのものが目的ではありません。章男会長が「手段と目的のはき違えが起つているのではないか」とおおかしい」と発言。

日本には新しい高効率エンジン、カーボンニュートラル燃料などの素晴らしい技術があります。多面的な取り組みで、地球温暖化抑制を実現していこうと、世界に向けて発信されました。

トヨタは昨年6月に、白社工場での二酸化炭素排出ゼロを2035年までに達成すると発表。最初は2050年でしたが、一気に15年も前倒ししています。脱炭素の動きは劇的に加速しています。そうしないと、金融資本や事業パートナー、そして世界からも相手にされないかもしれません。それは日本にとって難しい課題です。日本の致命的な問題は俊敏さ(アジリティ)です。これらは、ずっと前から言わせてきました。デジタル化の遅れの問題は、日本の長年の経営者には経営の定點観測点を持ち、ローカルリーダーのネットワークに入っています。

もう一つの世界最低の項目がアジリティです。これらは、ずっと前にから言わせてきました。デジタル化の遅れの問題は、日本の長年の経営者には経営の定點観測点を持ち、ローカルリーダーのネットワークに入っています。

トヨタは2050年でしたが、一気に15年も前倒ししています。脱炭素の動きは劇的に加速しています。そうしないと、金融資本や事業パートナー、そして世界からも相手にされないかもしれません。それは日本にとって難しい課題です。日本にとつて難しい課題です。日本の致命的な問題は俊敏さ(アジリティ)です。これはコロナ対策においても表れています。日本の根本的な問題にメスを入れないと同じような状況が続きます。

「DX for CX by CX」。これは二つに分かれます。最初の部分が「DX for CX」。CXはカスタマー・エクスペリエンス。

DXとCXをリンクさせることが必要。しかしながら、企業活動を見てみると、必ずしもリンクしていないません。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。

DXとCXをリンクさせることが必要。しかしながら、企業活動を見てみると、必ずしもリンクしていないません。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。

DXとCXをリンクさせることが必要。しかしながら、企業活動を見てみると、必ずしもリンクしていないません。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。

DXとCXのリンクを皆さんにお話しするのも、実は素晴らしい実例があるからです。金融の世界において、DXに最も成功した企業が、シンガポール開発銀行のDXは世界的に見ても、成功の割合は3割ぐらい。日本において、割合がもっと低いのは企業変革を必要とするからです。DXをやりながらも、地球温暖化を阻止することが世界の重要な問題ならば、しっかりとリンクしなければいけない。



東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト
道下 美里氏

(講演日: 講演日: 2022年4月22日)

スペシャルインビュー

東京2020パラリンピックの女子マラソンで、3時間0分50秒のパラリンピック新記録で念願の金メダルに輝いた道下美里氏。西日本支店長会4月例会は、道下氏のスペシャルインタビューとして開催。インタビュアーは、西日本新聞社の松田達也記者。東京パラリンピックを取材した松田記者が、道下氏に東京パラリンピック出場への準備や当日のマラソンでのスパートのタイミング、ご主人との出会い、日々のトレーニングなどについて聞きました。朗らかな声と、会場に響き渡る笑い声でインタビューに答えた道下氏は、「陸上競技で金メダルを2回取った女子選手はいませんので、東京に引き続きパリでも金メダルを取ることが目標」と締めくくりました。

不具合の発生原因、商品の需要。それはすべて暗黙知です。暗黙知とは、言葉や文章では通じないものです。それを現場で人間が暗黙知を形式知に変え、その結果として問題解決をする。だから品質で

東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト道下 美里氏

（講演日: 講演日: 2022年4月22日）

道下 まず自己紹介をします。三井住友海上で働きながら陸上競技に取り組んでいる道下美里です。山口県下関市出身。結婚を機に2010年に福岡に転居しました。フルマラソンを始めたのは31歳で、現在は45歳です。

— 東京パラリンピックでは、どのように準備をして競技に臨りましたか。

道下 一番重視したのは、東京大会なので地の利を生かした戦略です。気象条件や過去10年間のデータなどは誰よりも持っています。勝つために何をすればいいかを念入りにやりました。東京の前の大大会であるリオ大会では金メダルを目指しましたが、後半に失速して悔しい銀メダルに終わりました。なので東京大会では自分らしい走りをして、私の特長である後半のビルトアップを生かした走りをするために練習しました。大舞台で結果を出すのがいかに難しいかを実感したので、80kgの力でも勝てるような走力アップです。実際は世界記録を持つてスタートラインに立てるのですが、

まさにコロナ禍。オンラインの仕事がフェースツーエースに劣るとか、セカンドクラスということはありません。これからはワークとオンライン、そして対面。フェースツーエース。人々の出会いの場がないということは絶対ないと私は考えています。これは日本企業が世界に教えたことです。場における知識創造です。

トヨタとセブンイレブンに共通点があります。両社は企業活動に対して、革命を起こした会社です。トヨタは世界で初めて工員にライセンスを止める権限を与えた会社です。現場でトラブルが起こったときに、その場で工員が問題解決のリーダーシップを發揮する。それによってトヨタは、世界最高の品質を実現したのです。セブンイレブンは世界で初めてアルバイト、パートの方に商品登録の権限を与えるなど、その場で工員が問題解決のため問題解決をする。だから品質で

デジタルの時代、AIの時代、人間しか生み出せない知識があると暗黙知です。デジタル、データ、AIはすべて形式知です。あらゆる知識は暗黙知です。人間が暗黙知を生み出すということをやらないければ、知識が生まれないということです。

楽譜は形式知です。この通り弾いても名曲にはなりません。形式知の背景にものすごく豊かな暗黙知があるのです。暗黙知をつかむことで名演奏になります。企業の競争力の源泉、パフォーマンスは暗黙知にあります。

サイバーの良いところを活用しながら、問題点を見つけることが大事。サイバーの難しさは形式知の共有はできても、暗黙知の共有

トヨタは世界最高、セブンイレブンは収益性では世界最高です。両社がやっていることは、場における暗黙知の形式知への転換です。これがイノベーションにとって大事であることを世界に教えたのはトヨタやセブンイレブンです。現場において知識を生み出ししていく。暗黙知に特化した場で、人素晴らしさを世界に教えたのは日本企業です。

デジタルの時代、AIの時代、人間しか生み出せない知識があると暗黙知です。デジタル、データ、AIはすべて形式知です。あらゆる知識は暗黙知です。人間が暗黙知を生み出すということをやらないければ、知識が生まれないということです。

楽譜は形式知です。この通り弾いても名曲にはなりません。形式知の背景にものすごく豊かな暗黙知があるのです。暗黙知をつかむことで名演奏になります。企業の競争力の源泉、パフォーマンスは暗黙知にあります。

サイバーの良いところを活用しながら、問題点を見つけることが大事。サイバーの難しさは形式知の共有はできても、暗黙知の共有

世の中にはいいことをやらなければならぬのです。全体善のために正しい判断ができる人材育成が大事です。未来に情熱を持って、デジタルテクノロジーを駆使して素晴らしい未来をつくり上げる。DXやデジタルの時代も、価値創造は人間に始まるのです。まさに人の思いです。人間にしか暗黙知はつくりだせないことを考へることが必要です。

本日の締めくくりの言葉は、コンフォトゾーンから抜け出すこと。安住の地に留まつたら駄目です。留まつている限り、変化は起こりません。

— 日本で開催ということで、これまでの大会とは違うと思います。そのあたりはいかがですか。

道下 東京大会なので盛り上げていただき、普通の大会よりも走ること以外のことが多くなったです。そのあたりは会社や私が所属している日本ブラインドマラソン協会が優先順位をつけてくれました。私自身も大きなプレッシャーがかかることは分かつてていたので、逆に大会までのレースで自分にわざと「プレッシャー」を掛けました。例え2019年と2020年の大会では、「世界記録を目指して走ります」とわざと言つて、注目してもらつて大会に出ました。さらに、周りとの距離感を縮めることがたつたり、家族のような関係になれるような人たちを増やしました。なので、東京のスタートラインに立つときは、プレッシャーあまり感じませんでした。それくらいプレッシャーに対応していたのです。

— 東京大会は新型コロナの影響で1年延期になりました。そのときはモチベーションや、心の持ち方

いちじょう
一條
かずお
和生

一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了（社会学修士）。フルブライト奨学生としてミシガン大学経営大学院に留学し、経営学博士を取得。一橋大学講師、社会学部専任講師、同助教授、同大学院教授を経て、現職。2003年には経営者育成では世界トップクラスのスイスのビジネススクールIMDで、日本人初の教授に就任。その後客員教授として教鞭を取るが、2022年4月から13年ぶりに教授に復帰。専門分野は知識創造理論、イノベーション、リーダーシップ。



イノベーションパートナーズ代表取締役社長

本田 晋一郎 氏

ローカルでの新しい働き方 ～地域経済をその土地ならではの価値観で作る～

佐賀県嬉野市の老舗温泉旅館「和多屋別荘」にサテライトオフィスを構えてワーケーション事業を始めたイノベーションパートナーズ(本社・東京都港区)。西日本支店長会5月例会は、同社代表取締役社長の本田晋一郎氏を講師に迎えました。「ローカルでの新しい働き方～地域経済をその土地ならではの価値観で作る～」と題して地域創生事業に取り組むようになった経緯や、地域での活動で大切なことなどを語りました。本田氏は「自分のことよりも他人のことを優先するコミュニティーをつくっていくことが、地域を活性化することにつながる」と述べています。

(講演日:2022年5月18日)

地域創生事業に特化した会社

1979年生まれで42歳です。高校生まで愛知県で過ごして、大学入学を機に上京。大学にいるとからテレビの製作会社で、制作の仕事をしました。アシスタントディレクター、A.Dです。24時間寝ないで過ごすような過酷な生活の中で、大学の学びと両立て仕事をしていました。新卒でBS放送局のWOWOWに入社。ずっと宣伝で、スポーツや舞台、番組のプロモーションを担当しました。

2008年、プラスディーと一緒にプロモーションの制作会社を設立。それまで宣伝の仕事をしていましたので、マイクロソフトなどI.T企業に対してのクリエイティブを提供する仕事を展開しました。その後、映画の製作に携わり、2017年、ヒットとなつた映画実写版『銀魂』を製作しました。

十数年、プロモーションの仕事をしていく中で、プロモーションのI.T企業に対する対応がいいのです。地方に目を向けると、プロダクト(物)はものすごくいいのだけど、見せ方があまり上手ではない、売り方が上手で

はない、プロモーションの仕方が上手ではない。そういう商品が埋もれることに気付きました。地域の活性とともに、プロモーションのノウハウを生かした仕事ができないかということで地域創生事業を立ち上げたのです。

当時、プラスディーでは、名産品を日本全国に発信して売り上げを上げていきました。そこで、この事業に特化しようと、2018年に地域創生のインベーションパートナーズを設立しました。あくまでも東京を拠点に、事業者を紹介していただけます。地銀や信金との提携を元に、事業者を紹介していただけとか、自治体と提携するとか、商工会とタッグを組みながらやっています。

物はいいのだけれど、パッケージデザインが市場と合っていない。あとは、地域では卸中の事業者が多いので、デジタルを使ってECの販路を使いながらの拡大。当然ECサイトを作つただけで物は売れません。事業者は初期投資に関するお金がないし、デジタルに関するノウハウもなかなかありません。当然ながらメディアとの

接していいのか分からないので役所の福祉課に聞きに行きました。「普通に接したらいいですよ」と言っていたのです。そういったで聞きにきました。私としては、手紙が来るのです。だんだんと心が解けてきました。私としては、付き合うならば結婚を意識してと伝えてました。

「出会った当初の優しさが続いているのですか。道下 主人の中では、目が不自由なことがバリアではありませんでした。例えば背が低い人がいて、棚の物が取れなければ、取つてあげるのが当たり前。主人は、目が不自由なことに関して苦労することには手を差し伸べてくれます。けど、それ以外のことには一切手を差し伸べません。目が悪いことを言い訳にしてやらないことは許さない。本当の優しさに触れて、この人と一緒にいつまでも歩んでいきたいですね。

バリバリソニックでも金を

――東京パラリンピックという目標が達成されました。これから

斯がスタートするので、50000枚の記録会を四つ入れています。どこかで50000枚の日本記録を出すことが目標です。2年半後にはパリ大会があります。そこに向けて、どちらかというと苦手なスピード系を強化していきたいと思っています。

――アスリートも年を取つていくと体も変化していきます。どういうところに向き合つてトレーニングされていますか。

道下 45歳でも大濠公園で記録を出しているランナーがいます。今回の東京大会では、ブライアンド66歳の西島美保子さんが出場され、7位に入賞。66歳でも日本代表として活躍している選手がいるのです。コロナ禍になつて、コンディションづくりで意識したのが「自分を知ること。練習前に疲労度、睡眠、ストレス、筋肉痛記録を6段階で評価して、それで練習に臨むこと」を毎日やつています。そうすると、記録が落ちてくるパターンが分かつたり、自分自身のパフォーマンスが良かつたパターンが少しずつ見えてきます。数値で残していくことで俯瞰して見ることになり、自分をコントロールする感じ

――2024年8月にパリパラリンピックが開かれます。

道下 女子陸上競技部のOGだった河口恵さんと練習を重ねています。彼女は東京パラリンピックで、藤井由美子選手の伴走として参加されました。パリ大会は、横でスタートトライインに立てたらうれしいなという気持ちもあります。陸上競技で金メダルを2回

出るもののがべつかないように食事で野菜を多く取るとか、水分を小まめに取るようにしています。1日に必ず30品目食べるようになります。タンパク質も肉と魚と大豆製品と卵を必ず1日のうちに取る。これによって故障がすごく減りました。

――最後に、これからアスリートとして、目指していることなどをお話ください。

道下 東京大会をきっかけにパラリンピックに関心を持つていただき、競技の魅力を知つていただけたのでは。これを地域に根付いた活動にしていきたいというの私が私の思いです。

取った選手は、女子でいます。

――そのほかに心掛けていることがありますか。

道下 若いときよりも念入りにケアをしています。私の中で今はまつているのは、サウナと水風呂の繰り返し。今は暑熱順化です。スが落ちてきます。なので、体から季節の替わり始めのころの汗はすぐべたつくのです。べたついた汗は不純物も含まれていて、表面にまとわりついてしまうと、体の深部体温が上がってパフォーマンスが落ちてきます。なので、体から出るもののがべつかないように食事で野菜を多く取るとか、水分を小まめに取るようにしています。1日に必ず30品目食べるようになります。タンパク質も肉と魚と大豆製品と卵を必ず1日のうちに取る。これによって故障がすごく減りました。

――最後に、これからのアスリートとして、目指していることなどをお話ください。

道下 来月からトラックレー

スがスタートするので、50000枚の記録会を四つ入れています。

――最後に、これからアスリートとして、目指していることなどをお話ください。

道下 東京大会をきっかけにパラリンピックに関心を持つていただき、競技の魅力を知つていただけたのでは。これを地域に根付いた活動にしていきたいというの私が私の思いです。

1977年1月生まれ。山口県下関市出身。2004年、盲学校在学中に陸上競技と出会い、2008年からフルマラソンに挑戦する。144thと小柄だが「あきらめない心」「挑戦する心」で次々と各地の大会へ出場。2016年にはリオパラリンピック視覚障がい女子マラソンで銀メダルを獲得。2017年、府防認定マラソンで世界記録を樹立し、その後自ら二度更新。東京2020パラリンピックでは念願の金メダルを獲得した。

※西日本支店長会4月例会後の7月9日(土)に開催された「ホクレンディスタンスチャレンジ(北見)」T11~13(パラ)女子5000mの部で18分21秒75。アジア新記録。

組み方は分かつていません。そういったお手伝いもしているのです。

私がぶち当たった壁があります。事業力やサービスの内容はローカルにマッチしていて、資本に関しても銀行や事業者の方から出資をいたしている。にも関わらずうまくいかない。タッグを組んでいても、地域とのコミュニケーションがとりづらい。そういったことがありました。

宮崎県日南市の嶋田恭平元市長。この方との出会いにより、地域創生に関する事業を本腰を入れてやろうと決意したのです。嶋田氏はトライアンドエラーを繰り返すことで成功を作っていく。自治体の職員に対しても「失敗は当たり前」を伝えているなど、こんな面白い方が、自治体のトップをしている。こんな魅力のある自治体はないと思つたのです。嶋田氏の影響もあり、日南市にサテライトオフィスを設置し、事業者のサポートを始めました。

佐賀県嬉野市での活動は一つのロールモデルとしてやつていています。和多屋別荘は2万坪の敷地を持つた70年以上の歴史を持つ老舗旅館です。代表の小原嘉元さんと地域の方々の知見をしつかりアウトプットしていく。そして良さを全国に発信する。このサイクルを回していくことが大切と思っています。

東京一極集中の中で、地域にどうやつたらいい人材が動くか、いい人材が育つか。すごく感じるのには、いい人材はたくさんいるのですが分からぬ。あるいは、その価値が理解されていないことが多いのを実感します。東京から地元に帰りたいけども仕事がない。あるいはイメージと合わない。活力のある地域社会になるのではないかといったところを、私たちが核になつて活動しています。

佐賀のサテライトオフィスは三

つとも観光地です。コロナ禍で観光地の打撃はものすごいと肌で感じています。観光地は、交流人口である観光客への施策は持つていますが、それ以外の施策は二の次になつていることが多いのです。どうすればいいのか。関係人口と言いますが、その地域に行く意味、私たちは仕事の場所をつくることを軸にしています。

観光地は素晴らしいものを持っています。今まで観光客向けをメインにサービス提供していましたので、なかなか外からのアウトプットが思い浮かばなかつたのであります。関係人口につながるサービスを、私たちが地域に明確に提示して、持続可能な観光事業をつくり上げる。そういうことを観光地に対して提供をしています。

観光客向けだった地域資源を、地に足をつけ入り込んでいく

嬉野市では、和多屋別荘という場所と代表である小原さんというキーマンの下でスタートした事業です。和多屋別荘は宿泊をはじめさまざまなコンテンツを提供しています。日本の老舗旅館は変化するというイメージがあまりませんが、時代に合つた変化をしよう

とする小原代表の思いを共有しています。

2020年、まさにコロナで緊急事態宣言が出る直前に、「日本初。温泉旅館の中に会社をつくりました」をキーワードに自社のサテライトオフィスを設立。このこの取り組みを知つてもらおうと、さまざまなものでアプローチしました。九州を含め全国から観察にきていただきました。自治体や組合、事業者の方々に興味を持つてもらい、新しい働き方について見に来てもらいました。コロナ禍の中でしたが観察の数は450を超えたのです。それだけでも宿泊や食事に結び付きます。

ワークーションでは、日常とか離れた場所で、しっかりと息抜きをしながら最大化していくことが大切です。観察に来られた方々は、ワークーションの勉強になると言われます。温泉地で本当に仕事をしているのかと言わがちですが、日常の作業をするために行くというよりも、新しい発想を生むために新しい環境でどうやつて働くかが重要と思っています。

出会ったことで、サテライトオフィス設置が実現したのです。地域創生では、事業やサービスの内容は重要ですし、人柄も重要なですが、やはりその地域ならでは仕事が重要です。私たちがその地にしつかり入り込んでコミュニティーをつくつていく。その特性を生かした発信をやつていかない限り、地元の方がついてきませんし、世の中に通じるプロダクトはつくれないことに気付きました。

地域の特性を最大限生かす

次に会社の紹介をします。インバーションパートナーズは、ワクワクする、未来をつくる会社になります。自分たちがワクワクするようなものを提示しない限り、他人をワクワクさせられないのです。今、三つの事業をやつています。そこで重要視しているのは、既存のやり方を常に見直す。歴史あるものは素晴らしいものもあるのですが、コロナ禍の中で常に形を変えていきながら時代に合つた対策を取つていかない限り、どれだけ強い企業でも傾いていきます。しっかりと先を見据えた仕組みを

私がよく言うのは、「会社のために戸上り上げをコミットしてくれという時代ではない。みんなの成長を共にしていく。その後に事業成長がある。ただし、お客様目線を忘れずに。他者にどうやって貢献していくのか」。資本力強化と、全国の事業者とのつながりを深めようと、2020年4月1日に花のリーディングカンパニーである日比谷花壇とM&Aをしました。

現在4期目で、本社が東京になり、佐賀県に三つの支社があります。売上高は17億円弱で、40名程度の社員で活動しています。事業は、H.K事業部として日比谷花壇のハヌスエージェンシーをしています。宣伝を生かした事業と、プロ

モーションの制作事業は、代理店的な仕事や制作の仕事が中心です。お客様のニーズや予算に合わせたプロモーション提案をしています。映像制作やウェブサイトの制作に加え、自治体へのプロモーション提案など多岐にわたります。地域創生事業への要望が高いということで、数々の自治体と連携しながらお手伝いをしています。

重要なのは、あくまでも本社が東京にあるということ。それを忘れていたのか、意識していないかったのか、そこでぶち当たった壁がありましたので、会社の役割をしっかり考えながら活動しています。地元に住んでいる方は、私たちよりもいいものを知つていています。

本業のプロモーション事業は、代理店的な仕事や制作の仕事が中心です。お客様のニーズや予算に合わせたプロモーション提案をしています。映像制作やウェブサイトの制作に加え、自治体へのプロモーション提案など多岐にわたります。地域創生事業への要望が高いということで、数々の自治体と連携しながらお手伝いをしています。

モーションの制作事業は、代理店的な仕事や制作の仕事が中心です。お客様のニーズや予算に合わせたプロモーション提案をしています。映像制作やウェブサイトの制作に加え、自治体へのプロモーション提案など多岐にわたります。地域創生事業への要望が高いということで、数々の自治体と連携しながらお手伝いをしています。

日比谷花壇ではECサイトにおける運営サポートとプロモーションで、花のサブスクリプションなどを展開しています。日比谷花壇は花の小売りとブライダルの事業が中心なので、コロナ禍で売り上げを上げられない状態でした。ウェブ上で新たなサービスも開発しています。

2021年度西日本支店長会収支報告

2022年3月31日
(単位:円、税込)

取入の部			支出の部		
項目	金額	備考	項目	金額	備考
前年度繰越金	10,395,948		講師謝意費	1,329,019	講師謝意費等
通常会費	17,773,000	1社×72,000円 × 251社 市途中人会合費	会場費	7,355,504	例会会料、機材レンタル料、食事代等
特別会費	0		制作費	899,400	会報誌制作費(取材編集・原稿料・印刷代等)
広告料収入	3,916,000	新春名刺広告料他	通信交通費	604,494	会報誌・例会案内状の発送費、交通費等
その他収入	40,000	会報誌購読料	館入費	3,116,796	スタッフ派遣料分担等
			会議費	270,512	役員会他、打合せ会等
			課外活動費	5,296,138	研修旅行費用、鑑賞会費等
			事務費	128,933	事務用品、封筒代等
			その他支出	3,321,458	名刺広告料等
			名刺交換会	0	
			小計	22,322,254	
			次年度繰越金	9,802,694	
合計	32,124,948		合計	32,124,948	

収支の関係書類を照合しました結果、適正に処理されていることを確認いたしました。

2022年 5月 24 日 西日本支店長会 監査

江崎グリコ(株) 山本雅文

2022年 5月 24 日 西日本支店長会 監査

(株)有電社 大蔵 隆光

2022年度西日本支店長会役員

役職名	氏名	会社名・団体名	所属・役職
会長	福島 恒晴	キリンビバレッジ(株)	西日本統括本部九州支社長
副会長	渡邊 孝樹	加賀電子(株)	福岡営業所長
副会長	谷本 政樹	大和リース(株)	上席執行役員福岡支社長
幹事	石川 孝	サップロボール(株)	執行役員西日本本部長
幹事	茨木 実子	スカイマーク(株)	福岡空港支店長
幹事	尾中 泰	エンリンクス・パートナーズ	代表
幹事	香田 篤志	双日九州(株)	代表取締役社長
幹事	竹下 盛人	積水ハウス(株)	福岡マンション事業部長
幹事	牧元 稔治	鹿児島県	福岡事務所長
幹事	宮本 勝巳	丸紅(株)	九州支社長
幹事	渡邊 真幸	三菱地所(株)	九州支店長
幹事(新)	魚本 佳秀	西日本旅客鉄道(株)	福岡支社長
幹事(新)	鳥井 薫順	熊本県	福岡事務所長
幹事(新)	濱田 秀夫	日本銀行	福岡支店長
監査	大蔵 隆光	(株)有電社	九州支店長
監査(新)	大島 秀介	江崎グリコ(株)	九州エリア支店長

研修で使つて戻ってきた社員の顔を見ると、今までにないきいきとした顔をしていて、アウトプットがすごく変わったと言われます。こういった新しい働き方が、浸透していくのではないかと思っています。さらに、合同説明会を開催したところ、2日間で50名以上の求職者が来ました。

もう一つ、嬉野市では若手のスタートアップ支援をしています。温泉インキュベーションセンター(OMIC)を和多屋別荘の中につくり、地銀と教育機関と連携しながら、スタートアップの企業を集めています。事業を育てていく活動もやっています。

有田町では、デジタルを活用して、日本の伝統文化をどうやって継続し、さらに新しい顧客をどうやって生んでいくかに取り組んでいます。ショッピングモールのアリタセラは、焼き物好きは集まるのですけど、焼き物好きな家族連れが来ても時間がつぶせません。これをつぶすことによって、新しい創造が生まれ、価値がつくれます。焼き物プラスカフェ、といった

コラボレーションに取り組んでいます。三つ目。佐賀県多久市。多久市とは地方創生に向けた相互連携協定を結んでいます。単にサテライト体となって、観光協会や市役所と連携しながら活動しています。和多屋別荘と比較的似ているのですが、温泉を使った観光を軸にしています。それを観光客向けではなくて、新しいビジネスの拠点として生まれ変わることを多久市とやっています。

壁にぶちあたつたことを機に、しっかりと地に足をつけてローカルに入り込んでいく活動をしています。会社は社歴が短いのでプランDがない面がありますが、企業が地域で活躍し機能していくために、地域の人々から見たときによそではなく、地域の中にしっかりと入り込んで、コミュニケーションを自ら形成していく。そして、地域の事業者と協同していく。そこが重要な要素としています。

当然知識を持つていればいいと思います。経験があつた方がいいと思います。ただし、どれだけ多くの知識を持っていても、「昔はこう経験を持っていても、「昔はこうだった」と言つても未来はつくれません。コロナ禍で感じたことは、時代がどういう時代になるのか、変化をきちんと感じながらその変化に対応できる人間というの

性をつくりだして創生していく。そういうことが重要と改めて気付かされました。

2021年8月に九州北部で集中豪雨がありました。和多屋別荘のそばを流れる川が増水して、サテライトオフィスも被害を受けました。地域で活動していくところですが、東京でも起る可能性があります。嬉野市の浸水を感じたことは、問題に対してもう対応していくのか、どう支え合っていくのか。コミュニティをつくつくるのか。いいときにはみんな付いてくるけど、悪いときにどう支え合つているのか。自分のことよりも他人のことを優先するコミュニティーをつくつてくことが、地域を活性化することにつながると思っています。

私たちがつくついていきたい未来は、ここでしか働く場所がないこと。地域に仕事がある。それが日本全国に広がれば、人が豊かになります。美味しいし、ロケーションもいい。自分が好きな場所を見つけて仕事をしていく。仕事と人生の豊かさを、私たちが核となって啓蒙できるような存在になつていただき思っています。

ほんだ しんいちろう
本田 晋一郎

1979年9月生まれ。慶應義塾大学理工学部数理科学科統計学専攻卒。2003年、WOWOW入社。テニスや映画などのインターネットプロモーションに携わり、CM制作やイベント運営なども参画。2008年にプラスティー設立。大手クリエイント広告・プロモーション制作を担当。映画「オオカミ少女と黒王子」「銀魂1・2」などを製作。2016年に地方創生事業を立ち上げる。2018年、地方創生に特化したイノベーションパートナーズを設立。

会員異動 (50音順)

<p>日本たばこ産業(株) 福岡支社 支社長 岡本 賢司氏 (大阪出身)</p> 	<p>東光電気工事(株) 九州支社 支社長 山中 良平氏 (埼玉県出身)</p> 	<p>JFEスチール(株) 九州支社 支社長 副島 孝志氏 (佐賀県出身)</p> 	<p>(株)朝日工業社 九州支店 支店長 青地 徹氏 (滋賀県出身)</p> 
<p>日本メックス(株) 九州支店 取締役九州支店長 末永 裕章氏 (熊本県出身)</p> 	<p>(株)東芝 九州支社 支社長 横山 英樹氏 (福岡県出身)</p> 	<p>住友電設(株) 九州支店 支店長 上村 昭一氏 (大阪出身)</p> 	<p>アサヒビール(株) 九州統括本部 執行役員 九州統括本部長 中村 哲三氏 (東京出身)</p> 
<p>阪和興業(株) 九州支社 理事 九州支社長 岩本 章氏 (和歌山県出身)</p> 	<p>東レ(株) 九州支店 支店長 山内 哲矢氏 (熊本県出身)</p> 	<p>太洋ヒロセ(株) 九州支店 九州支店 執行役員支店長 花田 一彦氏 (広島県出身)</p> 	<p>江崎グリコ(株) 九州エリア支店 九州エリア支店長 大島 秀介氏 (大阪出身)</p> 
<p>富士通Japan(株) 福岡支社 福岡支社長 廣瀬 輝人氏 (東京出身)</p> 	<p>日鉄興和不動産(株) 福岡営業部 部長 竹濱 浩氏 (熊本県出身)</p> 	<p>大和証券(株) 福岡支店 支店長 河野 晶氏 (兵庫県出身)</p> 	<p>三協立山(株) 三協アルミ社 九州支店 執行役員九州支店長 東 一郎氏 (富山県出身)</p> 
<p>富士電機(株) 九州支社 支社長 田神 淳氏 (千葉県出身)</p> 	<p>日本銀行 福岡支店 支店長 濱田 秀夫氏 (長崎県出身)</p> 	<p>(株)東京ニュース通信社 西日本メディアセンター 西日本メディアセンター長代理兼 番組メディアセンター西日本情報制作部長 篠澤 直哉氏 (埼玉県出身)</p> 	<p>(株)サンゲツ 九州支社 九州支社長 中川 弘久氏 (奈良県出身)</p> 

新規会員(50音順)



(株)ナカノ商会
九州支社
執行役員
鈴木 一千氏
(神奈川県出身)



飛島建設(株)
九州支店
支店長
柳森 豊氏
(京都出身)



三菱UFJ信託銀行(株)
福岡支店
執行役員 福岡支店長
小林 泰文氏
(千葉県出身)



(株)ベネッセコーポレーション
九州支社
九州支社長
高月 淳芳氏
(岡山県出身)

会員異動(50音順)



(株)安川電機
九州支店
九州支店長
橋ノ本 将朗氏
(大分県出身)



(株)ホテルオークラ福岡
代表取締役社長
杉山 良太氏
(東京出身)



(株)よしもとエリアアクション
福岡支社
福岡支社長
河内 俊昭氏
(岡山県出身)



ホテルモントレ(株)
ホテルモントレ福岡
総支配人
雑賀 弘氏
(兵庫県出身)



(株)リクルート
HRエージェントDivision
エリア統括部
西日本地域活性営業部
部長
半坂 崇氏
(東京出身)



三井物産(株)
九州支社
理事九州支社長
中村 隆三氏
(福岡県出身)



三菱ケミカル(株)
九州エリア
九州エリア長
野澤 佳隆氏
(東京出身)